

# 西福寺だより

令和4年1月25日  
第6号

発行  
西福寺  
塩尻市下西条  
TEL:0263-52-0104



西福寺飯台座の杉戸（川窪蘭涯筆）

## 新年のご挨拶

総代長 小林 定勝

明けましておめでとうございます。昨年、本堂と庫裡の耐震再生工事が皆様方の貴い志納金により無事竣工いたしました。

皆様方のご協力に感謝申し上げます。本年は晋山式が予定されています。ご協力の程、あらためてお願いいたします。

新型コロナウイルス流行で大変な時世ですが、負けずに頑張ってください。檀信徒皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

さて広辞苑によると晋山とは、僧侶が新たに一寺の住職となることとあります。今回、西福寺では副住職が住職に、現住職が退位して東堂となることです。その事を檀信徒や近隣のお寺の住職さんに認知して頂く大切な儀式です。そのため、ご本山の総持寺の禅師さまや、遠近の住職方を大勢ご招待致します。その諸費用を再度、特別志納金としてお願い致します。金額は問いません。お気持ちを是非お寄せください。

晋山式を円滑に進めるため世話人さまにご協力をお願いしなくてはなりません。あらためてご依頼申し上げます。檀信徒の皆様には、是非、改修されたお寺にお参りいただき、式典にご参列頂きますようお願い申し上げます。

## 二十六世晋山式の備忘録

元西福寺総代長 中 澤 栄 治

平成十年十月二十三日より二十六日にわたって行われた現任職 青山文規師の晋山式並びに法脈会の概略を記録に基づいて述べてみたい。

まず、実行委員会について述べると、実行委員長には総代長の高砂弘男（以下敬称略）、副委員長には市川琢磨、保高紀保の二名。その下に総務委員会、法要委員会、境内整備委員会が設けられ、総代と世話人が委員として所属した。

第一日 十月二十三日

前日準備

実行委員は九時に集合し、受付及び地区ごとの記念品準備は、主に法要委員会が担当。駐車場の案内表示、テント張り、本堂のセツトは境内整備委員会が受け持った。

昼食の弁当をとって、ここから

は前日法要となる。晋山式の最高職である西堂老師（松本 瑞松寺住職）を山門にて迎える。総代はモーニング・礼服装であった。続いて修行僧の先頭に立つ首座を迎える法要。本堂にての行茶式では

実行委員もお茶をお相伴する。次に、法脈会にあたって三世の諸仏をお迎えする迎聖諷経、仏様を讃嘆し、法脈会の無事円成を祈念する啓建歎仏と続いた。実行委員は夕食をとって帰宅。弁当を持ち帰る委員もいた。寺院方は薬石を終えて翌日の習儀となる。

第二日 十月二十四日

退董式と晋山式を行う。

委員の集合時間は七時。朝、新命和尚（新任職）は安下処（本来は旅姿から晋山にあたっての法衣姿に整える場所）の養福院に向かう。新命和尚一行は八時に養福院を出発する。随行は、大傘一名、

高張二名、錦幡四名の計七名である。その間、本堂では退董式が始まる。相談役の小島宇一氏から前住職に労いの言葉が送られた。一方、新命和尚の行列は黒門までが

養福院の役員が随行し、ここからは法要委員に交替する。新命和尚は山門から本堂へ進み、先ず住職辞令を受けた。続いて本尊様から開山様へと就任挨拶の焼香に回った。続いて、首座が住職に代わって修行僧と仏法に関する問答を行う。この法戦式は晋山式の中でも華々しいメインの場面である。

この後、檀信徒各家の先祖を供養する総回向となり、参詣者全員の焼香となる。境内では並行して写真撮影の準備が進められる。法要終わって記念撮影となり、寺院方、首座関係者、実行委員会の順である。

正副法要委員長は、総持寺の板橋興宗禅師様を塩尻駅までお迎えに向かう。駅前の知春にて昼食、一休みして頂く。一般寺院と来賓はあさひ館にて祝膳をとる。手配のマイクロバスにて移動、接待係

も同行する。その他の実行委員は宝松閣で弁当、直壇（法脈会を担当する寺院）は各部屋にて弁当をとる。

午後から法脈会の法要が本格的に始まる。受付担当の寺院は特に忙しい。戒弟が集まったところで、初めに直壇から法脈会の諸注意あり。午後二時、禅師様が山門に到着され寺院、総代全員でお迎えし本堂へと案内する。これ以後は法脈会の法要が続いて行われる。最後に直壇から翌日の連絡事項あり、戒弟は散会帰宅する。寺院方は薬石終えて打ち合わせあり。

第三日 十月二十五日

引き続き法脈会

七時に直壇参集し戒弟受付をする。直壇の注意があつて法要に移る。午時供養では、戒弟の食事を供養した施主家の先祖供養が設けられた。最後に、戒弟が一人ひとり禅師様の前に進んで懺悔する儀式的懺悔道場となる。終わって直壇の注意あり戒弟は帰宅。寺院方は薬石終えて打ち合わせあり。

最終日 十月二十六日

日法脈会

前日に同じく、戒弟受付より戒会が始まる。前任職導師により大施食会法要、続いて重要な法要が続く。中でも正授道場は、正戒弟にとって中心の儀式であり、禪師様より直々に自分のお戒名が書かれたお血脈を授かる。

最後に三世の諸仏をお送りし、無事に大役を果たされた禪師様は、西福寺の本尊様や開山様にお別れのお拝をして本山へとお発ちになられた。新任職、寺院方、総代、戒弟全員にて送る。

実行委員は宝松閣で、寺院方は庫裡にて祝膳についた。以上が四日間わたる晋山式と法脈会の概要である。

元総代長 中澤記



## 正法寺へ拝登

昨年、十一月三十日に當山副住職一行の三人は、晋山式の西堂を拝請するために岩手県奥州市にある正法寺を拝登しました。西堂とは晋山式で最も重要な役職であり、不慣れな新任職を助ける務めをしますので助化師とも呼ばれます。この度は、正法寺住職の盛田のお寺は一般には「奥の正法寺」



正法寺法堂

と呼ばれ、貞和四年(一三四八)に開創された東北地方随一の古刹であり、末寺七十三ヶ寺を有しています。現住職の盛田正孝老師は昭和十九年生まれ。駒澤大学大学院修士課程修了。平成十八年から二十四年まで大本山總持寺の後堂という修行僧を指導する立場の職にありました。平成二十六年より正法寺第五十九世の住職を務めて



盛田老師

います。副住職は、本山安居中に老師の下で修業していました。今回の西堂職も快く引き受けていただきました。引き続き老師には、法脈会の戒師である禪師さまの随行長としてもお勤めになられませう。

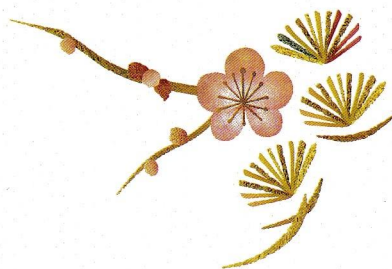
### 盛田老師のお言葉

お寺とは仏法僧の三宝のあるところす。

仏様がおられ、法即ち教えがあり、その教えを伝え広める僧がいるところす。

そしてこの三つを宝として生きて行く。

そう言う価値観をもつ者の集いが仏教徒です。



### 當山二十七世 晋山式・法脈会日程

	1日目 10月22日	2日目 10月23日	3日目 10月24日	4日目 10月25日
8:00		安下処出発 以下 晋山式法要	戒弟受付 以下 法脈会法要	戒弟受付 以下 法脈会法要
12:00	迎聖諷経・法脈会  西堂老師到着 以下 晋山式前日法要	戒弟受付 以下 法脈会法要	戒弟飯台	戒弟飯台
18:00	祝膳	戒弟散会	戒弟散会	大開静・終了

## 法脈会（授戒会）のご案内

—最も尊い儀式に参加しましょう—

西福寺では、来る十月二十二日から始まる當山二十七世晋山式に併せ、大本山總持寺の禪師さまをお迎えして、法脈会を厳修いたします。授戒会とは、曹洞宗において最も尊い儀式の一つです。親しく禪師さまから戒法（血脈）を授けて頂き、生前戒名を頂戴する儀式です。

また、安らぎの心や人生のよりどころを失っていく今日、仏教徒としての正しい生き方を修行として体験することで、尊い自己にめざめ充実した人生の日々を送るための儀式でもあります。残念ながら地方寺院では、ほとんど行われない儀式でもあります。

この度は、今日の社会状況に合わせて三日間にわたり厳修いたします。

檀信徒の皆様には是非とも、こ

の機会にご参加いただきたくご案内申し上げます。  
後日、参加申込書等の詳しい資料は配布いたします。

